

Profile

鈴木修【すずきおさむ】
 1930年生まれ。中央大学法学部卒業後、銀行勤務を経て、59年鈴木自動車工業(現スズキ)入社。2代目社長鈴木俊二氏の娘婿となる。67年常務、73年専務を経て、78年社長。2000年会長就任。08年から社長兼務。

鈴木修

スペシャル
インタビュー

Osamu
Special Interview
Suzuki



徳川家康公が築城し、天下統一の礎を築いた浜松城は、いつしか出世城といわれるようになり「出世の街・浜松」のシンボルとなった。昨今ではその歴史に準え、成功を願うビジネスマンが訪れる。そんな浜松市に現代版の徳川家康公ともいえるキーパーソンがいるをご存じだろうか。

浜松市民から「会長」「修さん」と親しみを込めて呼ばれる人物、自動車メーカー・スズキ株式会社 会長兼社長の鈴木修氏だ。長い歳月、強いリーダーシップと行動力でスズキの陣頭指揮を執り、日本独自の軽自動車文化をリードしてきた氏。仕事とは、成功とは――。齒に衣着せぬ氏の言葉から、出世のヒントを探していただきたい。

今年で84歳になられた修会長ですが、元気の源、健康の秘訣をご教授ください！

簡単なことです。「仕事」をすることです。人間は仕事をやらなきゃダメなのです。この歳になつてね「人生を全うする」ということは何だろうか？「人間の尊厳性はどこにあるのだろうか？」ということをよく考えるようになりました。

そして、人間は仕事をするために生きていると思いつたのです。だから僕の健康法は「仕事」をすることといえるのです。僕はだいたい週6日制で仕事をしています。今の世の中、いつどこで、何が起るかわからないですからね。

昔は「十年一昔」と言っていました。が、今では一年どころか一週間、一日が一昔。たった一時間でも物事の状況は大きく変動します。朝出した命令が夕方には変わるという意味の「朝礼喜改」という言葉がありますが、かつては経営者たるもの「朝礼喜改」ではいかに、とされた時代もありました。

しかし、今はそれをやらなければ経済や社会の動きについていけません。テレビで遠い外国の紛争が生中継される時代です。昔ではあり得ないことでしたが、今は瞬時に世界の中の情報がリアルタイムで手に入る。その動きに敏感でいなければならぬのです。

ですから「やりがい」があるから、なんて言うとかげに聞こえるかもしれませんが、仕事をしているときは、「会社をこれからどうしたらいいのか」と集中して考えています。それが僕流の元気の源なのでしょう。

修会長がスズキに入社されて53年。大きな転機や危機をどのように乗り越えられたのでしょうか？

私がまだ入社していない頃の1950年、国内最大級の労働争議が起こり、うちはほとんど倒産寸前でした。次は1975年、自動車の排ガスによる大気汚染が問題になり、排ガス規制が強化され対応に失敗した時。次は2000年が危ない構えていたら、数年遅れてリーマンショックという危機がやってきました。恐らく次は2025年頃にも新たな危機に見舞われるでしょう。

しかし、会社というものは、成長が停滞が可能性は半々です。ですからどうすれば成長を続けられるかということ、常に考えなければなりません。清く、正しく、利益を上げて雇用の安定を図ることが、経営者の使命です。おかげさまで、これまで成長を続けることができたのは、地域社会と一緒にうまく共生できた結果だと思えます。従業員がうまくやってくれたからです。

僕が行革審の会長を務めていたときですが、役所の方は「検討します」とか、「前向きに検討します」という言葉をよくお使いになりましたが、これは「やらない」と言っているのと同じなんです。「定年退職まで検討されるおつもりですか？」という皮肉を言ったこともあり(笑)。

個人にとっても、企業にとっても、役所にとっても、全て人間がやることには、どうしてもムダがでてしまうものなんです。だからこそ、常にそのことを意識して反省しながらムダをなくしていくということは、永遠の課題なのではないでしょうか。

行動をおこすこと、成果を出すことが重要なことです。民間企業なら成果で報酬が出るのですから、役所は企業の発展や市民の生活を守るためにも、地域の課題を解決していくことと行動しなければならぬと思います。

の状況に今の自分を当てはめてみると、なんとかしなきゃいかんと思うのではないのでしょうか。そういうことを考えられる人が、必然的にリーダーになっていくのだと思います。

今回の「意外と!? 浜松HAM A流のテーマ」は、「浜松の鈴木さん」です。鈴木姓となつて56年の修会長ですが、鈴木への特別な愛着は持ちますか？

名前というのは符合にすぎないと思っています。2013年に鈴木姓発祥の地といわれる和歌山県海南市の「第7回全国鈴木サミット&フォーラム」で講演を行いました。しかし、発祥の地というわりには、現在海南市の約3万人の人口のうち、鈴木姓は120人ほどしかないのです。浜松には5万人以上の鈴木姓がいて、私もその一人なのですが、これなら、浜松に鈴木発祥の地をもつてきた方がよいのでは、なんて冗談を言いました(笑)。名前は符号ですから、あまりこだわらなければならない考えですが、このサミットに全国から集まった鈴木姓の方たちは、本当に幸せな顔をされてると思います。

それは、「鈴木」という符合に対する信仰があるからです。それは、自分のルーツに対する尊敬であり誇りをもっているからだと思います。人間というものは、何でも良いですから信じていることがとても重要なんです。鰯の頭も信心から*こと言いますから。鈴木さんがたくさんいらつしやる浜松市は、幸せな方が多いのではないのでしょうか。

働くことは生きること。

自分のために、社会のために。

スズキの発展は浜松という地域性とも関係があるということでしょうか？

浜松は日本で2番目に面積が広い「市」ということですが、面積が広いということは道路が多く、車の利用頻度が高いわけですね。地元の方がスズキ車に愛情を持って使っていたことにも感謝しています。地元の協力なくして企業の発展はありません。

我が社は、言ってみれば「浜松生まれの浜松育ち」。どこにもお嫁に行っていないのです。だから、浜松市の協力なしではこまでもこれならなかった。中小企業の性格を持つ大企業と言っても良いかもしれません。めまぐるしく変化する世界情勢に目を向けながら、浜松市の将来についても共に考え行動していかなければならないのです。

Osamu
Special Interview
Suzuki

浜松市行財政改革推進審議会(行革審)の会長も務められたのは浜松への恩返しの意味も含まれるのでしょうか？

この世に生を受けた社会人全員が「仕事をやる」という気持ちを持つことが重要なのです。いつの時代でも、老いも若きにも言えることです。が、仕事をするといいことは、単なる金儲けではなく、社会のためになるように生きていくこと。このことがわからないから困るので(笑)。

私は、成功する人は地道にコツコツやる人だと思つています。出世するとか、成功するということだけを目標にするのではなく、自分が正しいか、どのように社会に貢献したらいいかというのを考えて、そのことを仕事をする原動力としてほしいのです。その原動力が結果として利益につながり、出世につながり、あるいはご自身の豊かな生活につながっていくのです。

また、僕はよく従業員に愛社精神なんて必要ない。ただ、明日会社がつぶれたらどうなるか？というのを各々考えてくれ」と言っています。そ



*1. 行財政制度及び行財政運営の改革に関して審議をする「浜松市行財政改革推進審議会」の会長を2005年～2009年の2期に渡り務めた。
 *2. 「鰯の頭のようにとるにたらないものでも、信ずる気持ちがあれば尊いものに見える」という、信仰心の不思議さをたとえた語。

INFORMATION

スズキの歴史が詰まった博物館

スズキ歴史館

1909年に鈴木式織機製作所を創業して以来の多くの製品と、現在のクルマづくりの工程を多彩に展示する歴史館。3階は織機から二輪、四輪へと転身を遂げたスズキの歴史。2階は車の開発から生産工程を3Dシアターなどで紹介している。「世界のスズキ」のモノづくりの神髄に触れてみよう。



日本で最初の本格的軽四輪乗用車「スズライト」、昭和54年5月発売の初代アルトなどの誕生秘話も紹介されている。



スズキ歴史館
 浜松市南区増楽町1301
 TEL.053-440-2020
 開館時間/9:00～16:30(予約制)
 休館日/月曜日・年末年始・夏季休暇等
 入館料無料
<http://www.suzuki-rekishikan.jp/>